

## 茂倉岳～蓬峠山行記録



目的地	茂倉岳（茂倉新道～蓬沢）	期 日	平成19年6月3日（日）
山人	笠原正雄・澄子	特 記	土樽からの環状縦走

地名	(着)～(発)	天候	記 事
与 板	午前3:20発	月夜	小千谷より高速深夜割引。湯沢国道道の駅で弁当朝食。
茂倉新道駐車場	5:20～5:40	晴	広い駐車場に自車1台。しっかりとした道標あり。
緩急の登り	6:20	〃	石と木の根が混じる登路。地面は粘土質、濡れていれば滑りやすそう。途中、暑くなって一枚脱ぐ。ブナ林の中で日焼け止めを塗る。
右手が開ける	7:05	〃	喬木が切れれば、万太郎から仙ノ倉・平標、苗場が見え始める。
高校生隊下山	7:10	〃	檜廊下に入る。前述の山が益々良く見えて来る。茂倉小屋泊の高校生数人隊が下山して来た。最後尾は引率女性教師のようだ。
単 独 下 山 者	7:30	〃	蓬峠～茂倉岳、茂倉小屋泊と言う。根が露出した檜が登路を塞ぐ。
矢 場 の 頭	7:50～8:10	〃	小岩のピーク。谷川岳双耳峰からオジカ沢の頭、鞍部に大障子避難小屋、平標山まで、一昨秋の縦走路が全て見渡せる。吾策新道を確認。腰を下ろし、サンドウィッチで小昼。尾根の登路が良く見える。
H1683 ピーク	8:50	〃	10 畳位の広さ。肩ノ小屋がはっきりして来た。直下に残雪を抱いた茂倉避難小屋の屋根が見える。シクガ・シク材等。
茂倉避難小屋	9:30	〃	中に入る。きれいな小屋だ。単独が降りて来て、水場へ下って行った。
茂 倉 岳	9:45～11:05	〃	一ノ倉岳に続く雪渓を単独が登って行く。もう一人単独が武能からやって来た。一ノ倉、谷川岳を眺めながらランチ。虫がやや煩くて帽子のツバに薄荷油を塗る。馬蹄形縦走者等数人が上がって来たが、皆通過して行く。歩き出そうとすると小屋方向から上がってくる青シャツ単独男が見えた。彼に2ショットを撮ってもらおうと暫く待った。
最低鞍部（笹平）	11:50	薄曇	ランチ時着込んだ上着を脱ぐ。武能岳がどっしりと見える。
武 能 岳	12:35～12:45	〃	蓬ヒュッテの黄色い屋根が見える。曇勝ちと気温上昇でモヤッテ来たが、大源太山が鋭い。清水峠の東電小屋から白毛門と馬蹄形が見渡せる。見下ろせば、湯檜曾川の上流部が沢奥に伸びている。人に会わなくなった。
蓬ヒュッテ	1:20～1:25	〃	1日から管理人が入っている。入口を覗いてみた。指導標に土合3:30、土樽2:30とある。夫婦が蓬沢を先行下山して行く。山腹の斜面道。
雪 渓 渡 り	1:45	〃	2ヶ所、短い慎重にわたる。登路も崩れかけている。
夫婦に追い付く	2:05	〃	沢を渡り、顔を洗う。蓬峠ピストンの先行夫婦が休憩中。砂防ダムまで車で来ていると云う。帰りの同乗をお願いして先行する。この先に2～3mの土砂崩れがあり、竹を倒した高巻を通る。シカガミ咲く。
東俣沢渡渉	2:45	〃	道標がある。数mの流れに倒木が渡してある。石に黄ペンキもある。
もう一度渡渉	3:00	〃	東俣沢を過ぎると沢に添う石がゴロゴロした歩きにくい道となる。草も覆っている。流れの中を進む所もある。朝にこの道を進むのは、樹林と草で気分が減入るだろうと思う。ツバメト一つ。ラシヤカガズが多い。
蓬沢砂防ダム	3:20～3:25	〃	道脇に竹のトヨから清水トンネル岩清水が出ている。急に広い河原となる。平らな大きな石のテーブルが2つ置いてある。林道を少し進んで次のダムに駐車場。3台。夫婦を待たずに先へ進む。途中もう一度道脇の湧き水を飲む。茂倉山頂での青シャツ男が追い付いて来た。話ながら進む。
歩 行 終 了	3:50	〃	茂倉新道と蓬沢分岐の少し手前で夫婦の車が下って来た。青シャツ男と一緒に駐車地点まで車回収に送って貰った。ここは登りなので助かった。
帰 路 へ	3:55～4:10	雨曇	ザックをおいた地点に戻り帰り支度をする。土樽過ぎで一人の男を載せて湯沢駅まで送ってやる。雨が当たり始め、R17に出ると本降りとなる。

いい山だった。地味なイメージを持っていたが、茂倉新道は幅も広く、降ろされることも無く、順調に高度を稼いで行く。ブナの登りも気分が良く、檜廊下に来れば好展望となる。万太郎谷から突き上げるスラブは素晴らしい。笹原の稜線歩きも景色が広がって開放的だ。ただし、蓬沢の歩きはあまり楽しくない。